

2013 年度活断層学会論文賞

授賞者： 木村治夫・中西利典・丸山 正・安藤亮輔・堀川晴央

対象論文： 糸魚川－静岡構造線活断層系神城断層における地中レーダー探査，活断層研究，38，1-16

授賞理由：

詳細な地下地質構造を明らかにすることは、活断層の潜在的危険性が社会に広く認識されている今日において大変重要な研究テーマである。しかし、連続的、非破壊かつ迅速に結果の出せる地下探査手法はそれほど多くはない。筆者らは神城断層において高分解能地中レーダー探査を行い、既往の群列ボーリングおよびトレンチ調査と比較・対照するとともに、被覆層や人工改変を取り除いた正確な変位量を求めている。探査結果は明瞭な断面で示され、地中レーダーが活断層調査において実用的なツールになりうることを如実に示している。探査手法自体は目新しいものではないが、日進月歩の技術進歩によって大深度・高分解能での調査が可能になっている現状を、本論文は読者に明確に伝えており、今後の調査に取り入れてみようと思う読者も少なくないと思われる。以上により、2013 年度日本活断層学会学会賞論文賞選考委員会は本論文を日本活断層学会論文賞に値するものと評価する。